

シニア人生
働き方と生きがい調査
報告書

平成 20 年 1 月

財団法人鳥取県労働者福祉協議会

はじめに

財団法人鳥取県労働者福祉協議会

理事長 中田 博明

団塊世代の大量退職は、社会の大きな変動要因になるものとして「2007年問題」と称され、今日さまざまところでとりあげられています。

鳥取県においても、高齢者人口は平成19年で150,599名と総人口の25.1%を占め、団塊世代とあわせ高齢化の進展が如実に現れ、社会全体の構造が大きく変化してきております。

高齢者の皆さんがいつまでも健康で、現役時代に培われたノウハウを社会貢献としてのボランティア活動に参加いただくことができれば、との思いから今回2,600名の方にアンケートを実施しました。

この調査結果を基に、高齢者を含む県民の生活・福祉の向上を図るための基礎資料として活用させていただきたいと考えています。

本調査の実施に当たりご協力いただきました、鳥取高退連の役員・組合員の皆様をはじめ多くの方々に深く感謝申し上げます。

も く じ

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	2
1.	回答者の属性	2
問 1	性別	2
問 2	年齢	2
問 3	家族構成	2
問 4	健康状態	2
2.	調査結果の概要	3
◎	現在の生活について	3
問 5	普段の過ごし方	3
問 6	暮らしの中の不安	4
問 7	暮らしの中の不安材料	4
◎	定年後の多様な働き方について	5
問 8	現在の仕事への従事状況	5
問 9	働き続けたい年齢	6
問 10	働きたい理由	6
問 11	働きたい仕事の内容	8
問 12	希望月収	9
問 13	希望する労働時間	9
◎	生きがい、ボランティアについて	10
問 14	あなたの生きがい	10
問 15	生きがいを感じる趣味・スポーツの内容	11
問 16	ボランティア活動への参加	12
問 17	参加したいボランティア活動等	13
問 18	ライフサポートセンターに相談したい内容	14

資 料

性別・年齢別クロス集計表

調 査 票

シニア人生 働き方と生きがい調査

I 調査の概要

1. 調査目的

- 1) 定年後の生活状況調査により就労意欲、生きがいやライフプラン、ボランティア等の社会参加への考え方を把握することを目的とし、今後の高齢者福祉活動の推進に活用する。
- 2) 退職者の現況と意見を求めて、今後発生する退職者へのアドバイス・困りごと相談の内容充実を図る。

2. 調査方法

アンケート用紙を産別組織事務局を通じて送付、又は直接記入されたものを郵便で回収する方法とした。

3. 調査対象

鳥取県内に居住する者、鳥取高退連会員 2,624 名を対象とした。

4. 調査期間

2007 年 10 月 15 日～2007 年 11 月 30 日

5. 回収結果

調査対象者数（送付数）	回収数	回収率
2,575 人	880 人	34.17%

II 調査結果の概要

1. 回答者の属性

(フェイスシート)

問1 性別

	回答数(人)	比率(%)
男 性	598	68.0
女 性	280	31.8
不 明	2	0.2
合 計	880	100.0

問2 年齢

	回答数(人)	比率(%)
60～64 歳	211	24.0
65～69 歳	212	24.1
70～74 歳	156	17.7
75 歳以上	295	33.5
その他	3	0.3
不 明	3	0.3
合 計	880	100.0

問3 家族構成

	回答数(人)	比率(%)
一人住まい	82	9.3
配偶者	664	75.5
父 母	109	12.4
子 供	340	38.6
兄弟姉妹	8	0.9
その他	147	16.7
不 明	3	0.3
合 計	880	100.0

問4 健康状態

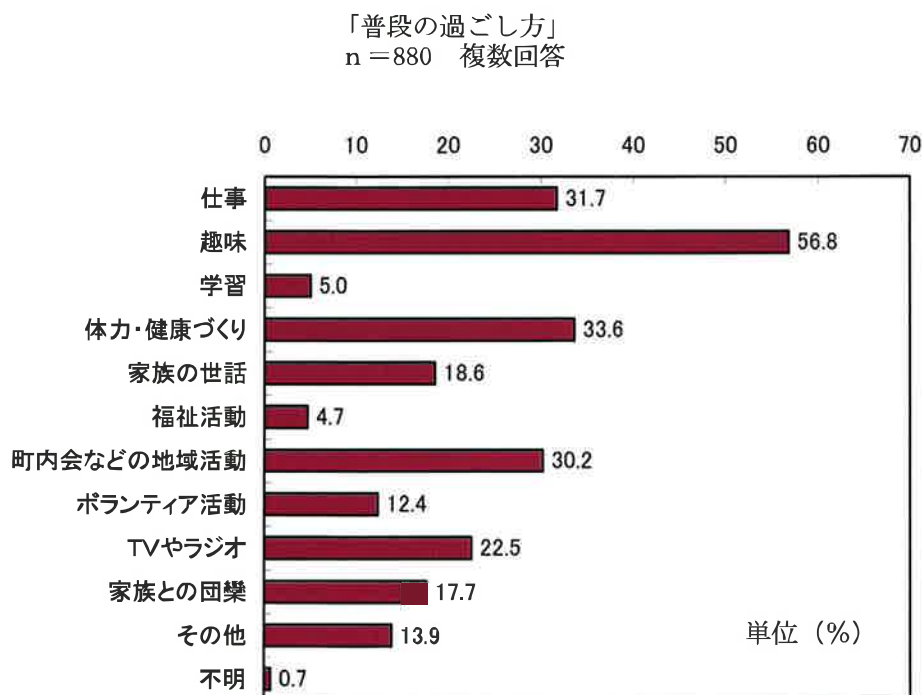
	回答数(人)	比率(%)
よ い	478	54.3
悪 い	113	12.8
どちらとも言えない	282	32.0
不 明	7	0.8
合 計	880	100.0

2. 調査結果の概要

◎ 現在の生活について

問5. 普段の過ごし方

～60歳前半は仕事、後半は地域活動、趣味、70歳代は体力づくりと家族と団楽～



日常生活の過ごし方は、「趣味」が最も多く56.8%と6割近くを占めており、次いで「体力・健康づくり」が33.6%、「仕事」が31.7%、「町内会などの地域活動」が30.2%と続き、趣味を中心としながら多くの活動を併用しているようである。

年齢別でみると、「60～64歳」では「仕事」を継続してる人が多いが、65歳以上になると「趣味」「町内会などの地域活動」「体力・健康づくり」のウエイトが高くなっている。また75歳以上になると「TVやラジオ」「家族との団楽」の生活が多くみられる。

表 年齢別×普段の過ごし方

(%)

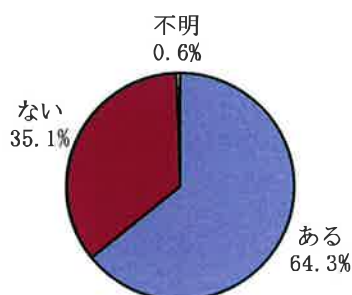
	回答数	仕事	趣味	学習	体力・健康づくり	家族の世話	福祉活動	町内会などの地域活動	ボランティア活動	TVやラジオ	家族との団楽	その他	不明
合計	880	31.7	56.8	5.0	33.6	18.6	4.7	30.2	12.4	22.5	17.7	13.9	0.7
60～64歳	211	53.6	50.2	3.3	25.1	20.9	2.4	28.0	10.9	20.4	16.6	11.4	-
65～69歳	212	35.8	63.7	4.2	36.3	17.5	5.7	43.9	16.5	17.0	17.5	10.8	-
70～74歳	156	24.4	60.3	3.8	37.2	21.2	5.8	29.5	12.2	23.7	14.7	16.7	0.6
75歳以上	295	16.6	54.6	7.1	36.3	16.9	5.1	22.4	10.5	27.8	20.7	16.3	1.7

※ 不明回答は含んでいないため合計数値は合致しない。

問6 暮らしの中の不安

～6割以上が暮らしの中に不安～

「暮らしの中の不安の有無」
n=880 単数回答



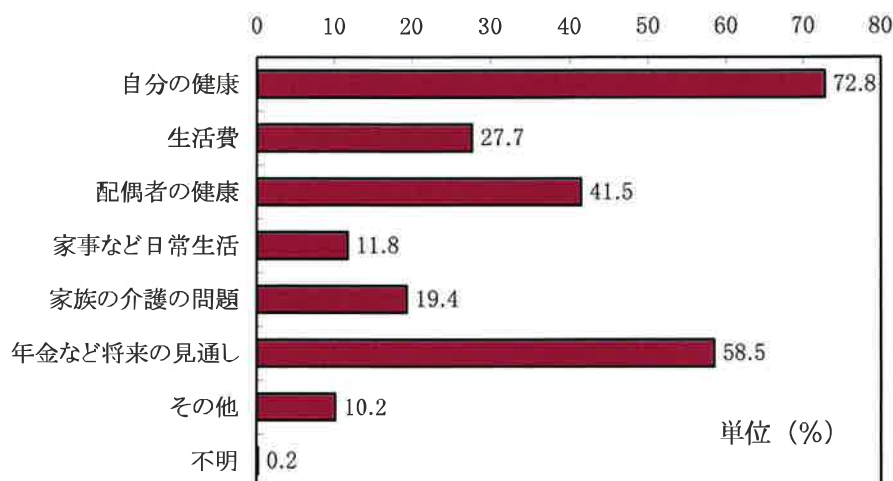
単位 (%)

暮らしの中で、不安を感じている人は「(不安が) ある」が64.3%と6割以上を占め、「ない」は35.1%となっている。

問7 暮らしの中の不安材料

～自分又は配偶者の健康と生活資金～

「暮らしの不安材料」
n=566 複数回答



単位 (%)

暮らしの中に不安がある人(566人)に、不安材料の内容を聞いてみると、「自分の健康」が72.8%と圧倒的に多く、「配偶者の健康」も41.5%と高い割合となっている。また、「年金など将来の見通し」が58.5%、「生活費」が27.7%と年金を含んだ生活資金の不安も大きなウエイトを占めている。

性別で見ると、男性は女性と比較して「年金など将来の見通し」「生活費」「配偶者の健康」が多いが、女性は「自分の健康」「家事などの日常生活」に対する不安が多い。

年齢別では、60～69歳は「年金など将来の見通し」「生活費」等、生活の費用に関する項目が多く、70歳以上では「自分の健康」「家事などの日常生活」など、健康でありながらどのようにして生活するか不安を抱いている。

表 性別及び年齢別×暮らしの不安材料

(%)

	回答数	自分の健康	生活費	配偶者の健康	家事など日常生活	家族の介護の問題	年金など将来の見通し	その他	不明
合計	566	72.8	27.7	41.5	11.8	19.4	58.5	10.2	0.2
男性	396	70.5	32.6	44.4	7.6	19.2	61.6	7.6	0.3
女性	168	78.0	16.1	35.1	21.4	19.6	51.2	16.7	-
60～64歳	144	64.6	37.5	31.9	5.6	28.5	67.4	7.6	-
65～69歳	145	62.8	36.6	43.4	6.9	13.8	72.4	9.7	-
70～74歳	99	75.8	27.3	49.5	11.1	16.2	61.6	13.1	-
75歳以上	174	86.8	12.6	43.7	21.8	18.4	37.9	11.5	0.6

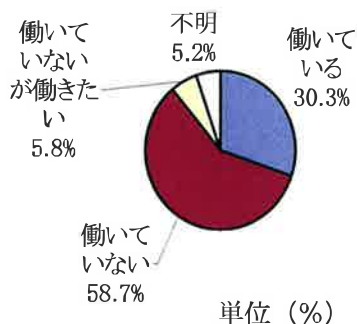
※ 不明回答は含んでいないため合計数値は合致しない。

◎ 定年後の多様な働き方について

問8 現在の仕事への従事状況

～6割弱が働いていない～

「現在の仕事の状況」
n=267 単数回答



現在の仕事については、「働いていない」が58.7%と6割近くあり、一方「働いている」は30.3%、「働いていないが働きたい」が5.8%と続いている。

性別でみると、「働いている」という回答は男性では4割近くとなっているが、女性は1割程度にとどまっている。

表 性別×仕事への従事

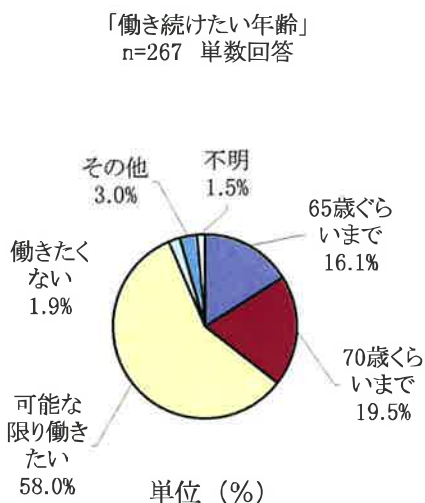
(%)

	回答者	働いている	働いていない	働いていないが働きたい	不明
合計	880	30.3	58.6	5.8	5.2
男性	598	38.1	49.2	7.2	5.5
女性	280	13.6	78.9	2.9	4.6

※ 不明回答は含んでいないため合計数値は合致しない。

問9 働き続けたい年齢

～生涯働きたいという意識が強い～



現在働いている人に、何歳まで働き続けたいのか聞いてみると、「可能な限り働きたい」が58.0%と最も多く、次いで「70歳くらいまで」が19.5%、「65歳くらいまで」が16.1%と働く意欲が高いことが分かる。

年齢別でみると、60～64歳までの人は「65歳くらいまで」を目標とし、65～69歳までの人は「70歳くらいまで」を目標にしており、70歳を超えると「可能な限り働きたい」が8割以上を占め、生涯働きたいという意向が強く感じられる。

表 年齢別×働き続けたい年齢

(%)

	回答数	65歳 くらいまで	70歳 くらいまで	可能な限り 働きたい	働きたくない	その他	不明
合計	267	16.1	19.5	58.1	1.9	3.0	1.5
60～64歳	105	40.0	17.1	38.1	2.9	1.9	-
65～69歳	76	1.3	42.1	53.9	-	1.3	1.3
70～74歳	38	-	2.6	92.1	-	5.3	-
75歳以上	44	-	2.3	84.1	4.5	4.5	4.5

※ 不明回答は含んでいないため合計数値は合致しない。

問10 働きたい理由

～収入より、人との出会い、生きがいのために働きたい～

現在は働いていないが、今後働いてみたいという人（51人）に、働きたい理由を聞いてみると、「仕事を通していろいろな人と出会いたい」が52.9%、「健康維持のため」が47.1%、「生きがいを実感したいため」が31.4%と、仕事を通じた人との触れあい、自己の生きがいを求めた理由が多くみられる。そのため「生活のため」が37.3%、「生活はできるがより多くの収入が得たい」が27.5%、「もっと自分の小遣いがほしい」が19.6%という意見は比較的少ない。

性別でみると、男女とも「仕事を通していろいろな人と出会いたい」「健康維持のため」という意見が多いものの、男性では「生活のため」「生活はできるがより多くの収入が得た

い」という意見が多い。一方女性は、「趣味や専門能力を活かしたい」「もっと自分の小遣いがほしい」という意見が多くみられる。

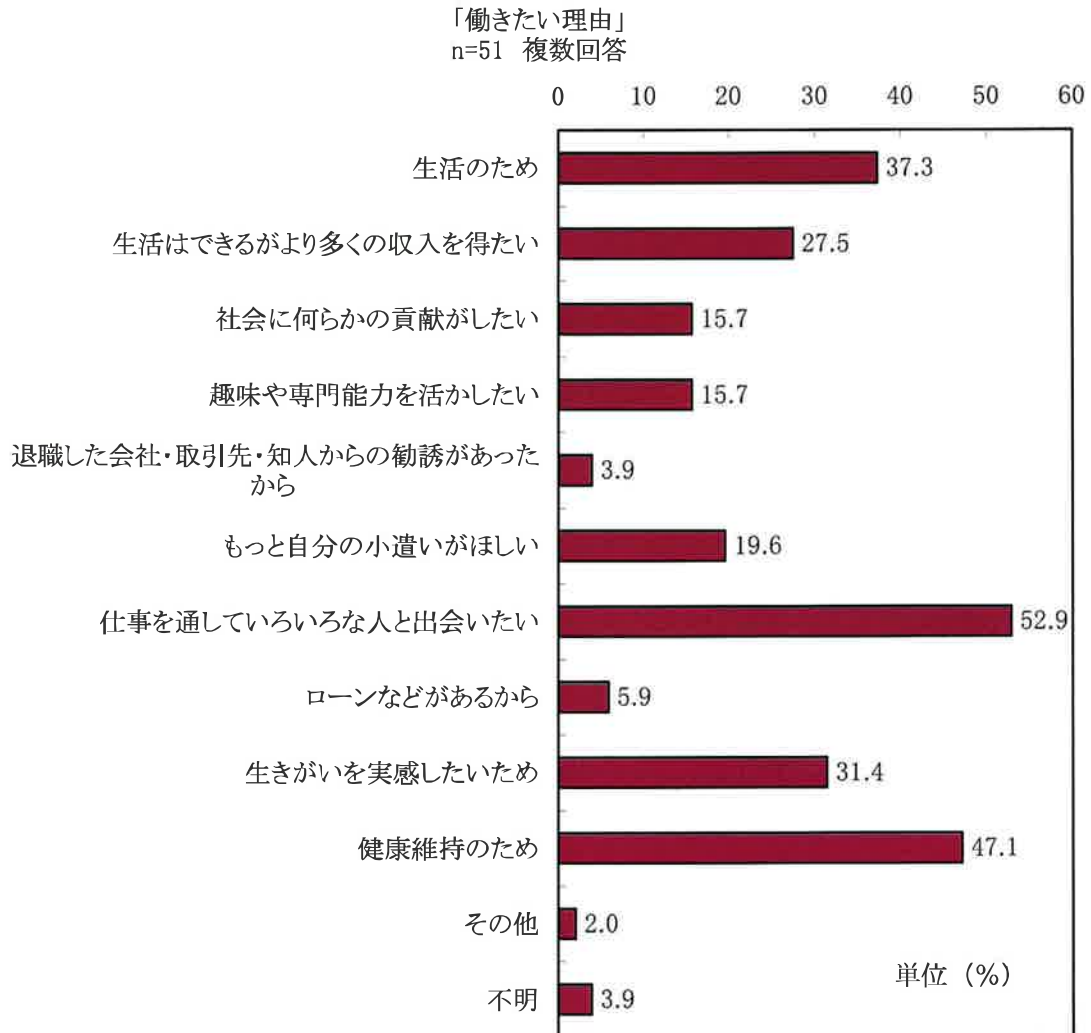


表 性別×働きたい理由

(%)

	回答数	生活のため	生活はできるがより多くの収入を得たい	社会に何らかの貢献がしたい	趣味や専門能力を活かしたい	退職した会社・取引先・知人からの勧誘	もっと自分の小遣いがほしい	仕事を通していろいろな人と出会いたい	ローンなどがあるから	生きがいを実感したいため	健康維持のため
合計	51	37.3	27.5	15.7	15.7	3.9	19.6	52.9	5.9	31.4	47.1
男性	43	39.5	30.2	16.3	11.6	4.7	16.3	53.5	7.0	30.2	46.5
女性	8	25.0	12.5	12.5	37.5	-	37.5	50.0	-	37.5	50.0

問 11 働きたい仕事の内容

～簡単で時間の都合がつく仕事を希望～

これから仕事をしたい人に、希望する仕事概要を聞いてみると、「時間を選べる仕事」が49.0%と半数近くを占め、次いで「簡単に出来る仕事」が45.1%、「退職前とは無関係な仕事」が33.3%と続いている。このように、今までの経験や技術を生かせる仕事より、経験がなくても簡単に出来、働く時間が選べる仕事を希望している。仕事自体を収入源として捉えてなく、生きていくための生活や趣味と同等に位置付けていることがうかがえる。

年齢別でみると、退職間もない60～64歳では「退職前とは無関係な仕事」「時間を選べる仕事」を希望する意見が多い。

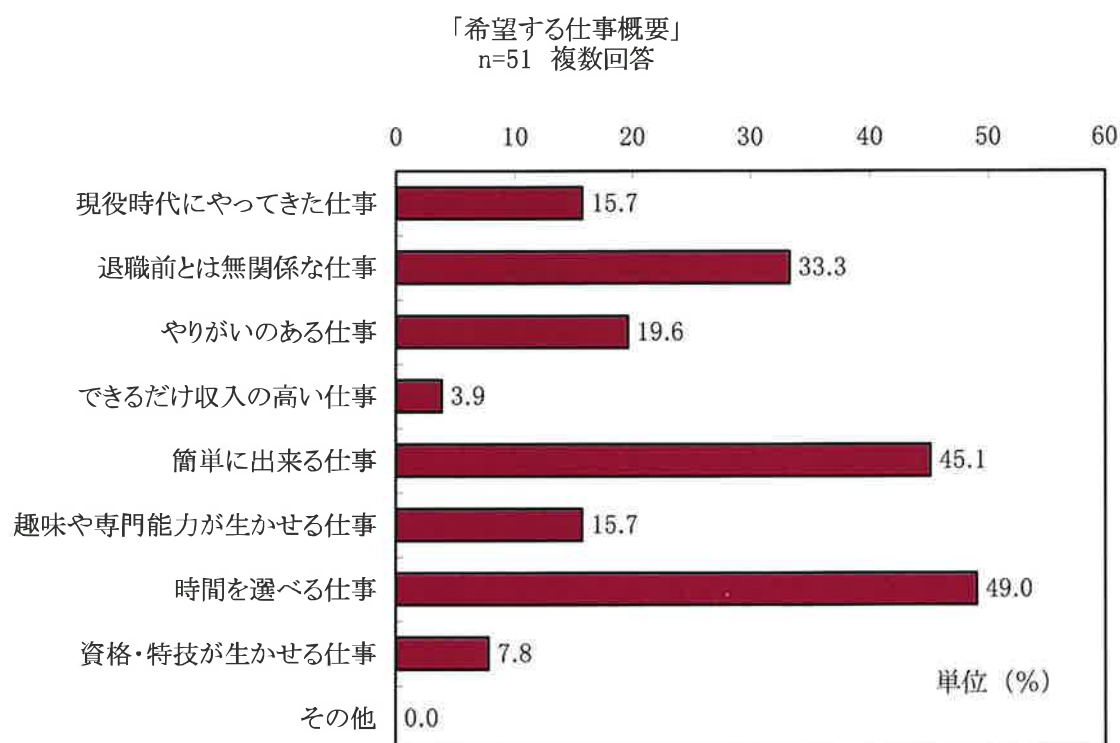


表 年齢別×希望する仕事概要 (％)

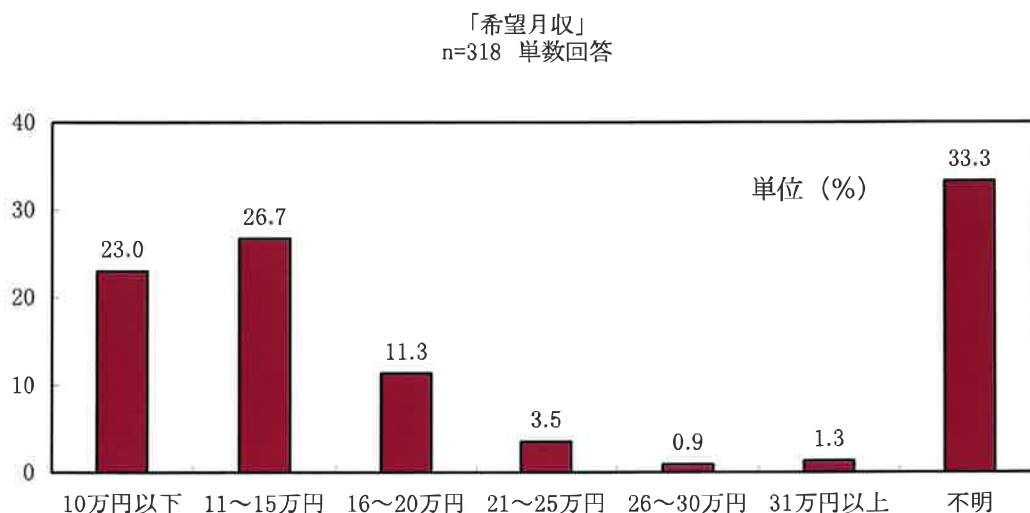
	回答数	現役時代にやってきた仕事	退職前とは無関係な仕事	やりがいのある仕事	できるだけ収入の高い仕事	簡単に出来る仕事	趣味や専門能力が生かせる仕事	時間を選べる仕事	資格・特技が生かせる仕事
合計	51	15.7	33.3	19.6	3.9	45.1	15.7	49.0	7.8
60～64歳	11	9.1	63.6	-	-	45.5	9.1	72.7	-
65～69歳	22	18.2	22.7	27.3	-	54.5	22.7	45.5	13.6
70～74歳	12	16.7	25.0	25.0	16.7	16.7	16.7	41.7	8.3
75歳以上	6	16.7	33.3	16.7	-	66.7	-	33.3	-

※ 不明回答は含んでいないため合計数値は合致しない。

問 12 希望月収

～半数以上が「15万円以下」を希望～

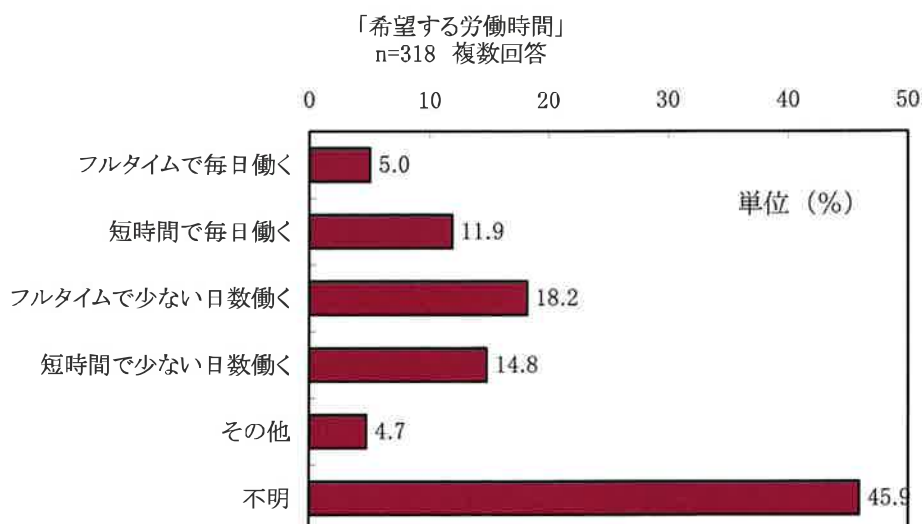
現在働いている人、またこれから働く人の希望月収は、「11～15万円」が26.7%、「10万円以下」が23.0%、「16～20万円」が11.3%と15万円未満が半数以上を占めている



問 13 希望する労働時間

～生活に余裕の時間が持てる「短時間・短日数労働」を希望～

現在働いている人、またこれから働く人の希望する就労時間帯の多くは、「短時間で毎日」11.9%、又「フルタイムで少ない日数」18.2%と、生活に余裕が持てるような短時間労働を希望しており、「フルタイムで毎日働く」は僅か5%となっている。



◎ 生きがい、ボランティアについて

問 14 あなたの生きがい

～趣味・スポーツを生きがいにする人が5割以上～

生きがいは、「趣味」「健康」「交流」というキーワードに関するものが多く、「趣味・スポーツ」が50.9%と圧倒的に多く、次いで「健康づくり」26.8%、「子供・孫など家族・家庭の活動」が23.3%、「友人などとの交流」が21.4%、「自然とのふれあい」が17.5%と続き、「仕事」「学習活動」等の分類は低い。

性別で見ると、男性は「仕事」「趣味・スポーツ」「健康づくり」など個人単位の活動が多いが、一方女性では、「子供・孫など家族・家庭の活動」「友人などとの交流」など、人との交流を重視したものが多くみられる。

年齢別では、60～69歳までの比較的若い段階は「仕事」もみられるが、70歳以上では「健康づくり」「友人などとの交流」という意見が多くなっている。

「生きがいの内容」
n=880 複数回答

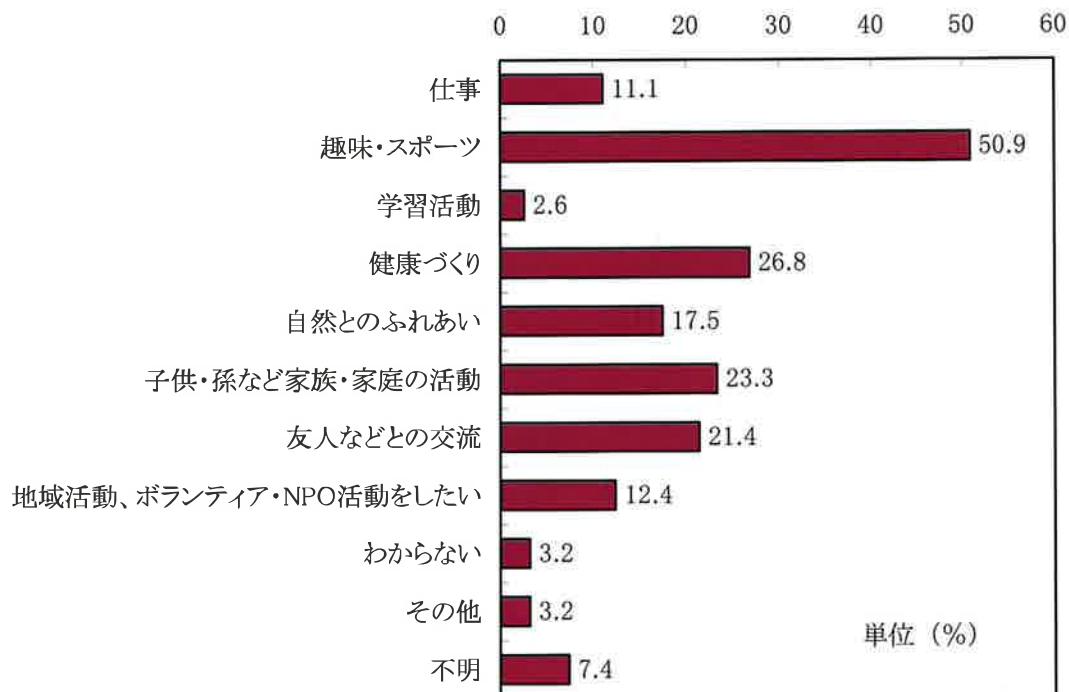


表 性別・年齢別×生きがい

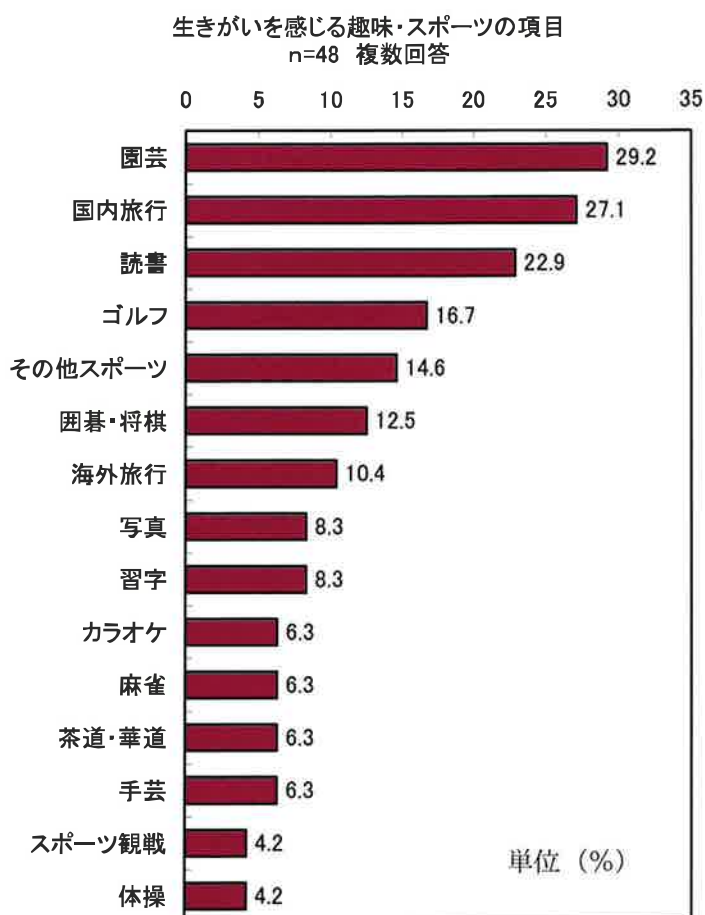
(%)

	回答数	仕事	趣味・スポーツ	学習活動	健康づくり	自然とのふれあい	子供・孫など家族・家庭の活動	友人などとの交流	地域活動、ボランティアやNPO活動をしたい	わからない	その他
合計	880	11.1	50.9	2.6	26.8	17.5	23.3	21.4	12.4	3.2	3.2
男性	598	13.9	52.2	3.3	28.8	16.9	21.1	15.1	12.9	3.2	3.8
女性	280	5.0	48.6	1.1	22.9	18.9	28.2	34.6	11.1	3.2	1.8
60～64歳	211	13.7	50.7	2.8	20.9	23.7	28.4	18.0	14.2	3.3	2.8
65～69歳	212	16.5	55.2	0.5	26.9	17.9	22.2	19.8	19.3	2.4	2.8
70～74歳	156	9.0	53.2	2.6	29.5	14.1	28.8	23.1	10.3	3.2	3.8
75歳以上	295	6.8	46.4	3.7	29.8	14.9	17.6	24.1	7.1	3.7	3.4

※ 不明回答は含んでいないため合計数値は合致しない。

問 15 生きがいを感じる趣味・スポーツの内容

～男性は屋外向き、女性は屋内向きの趣味～



生きがいを感じる中で最も多い「趣味・スポーツ」の内容を聞いてみると、「園芸」が29.2%と最も多く、次いで「国内旅行」「図書」「ゴルフ」「その他スポーツ」「囲碁・将棋」と続いている。

性別でみると、男性は「国内旅行」「ゴルフ」「その他スポーツ」「海外旅行」など、屋外での行動的なものが目立つが、女性は「読書」「茶道・華道」「手芸」「園芸」など室内での趣味・スポーツが多い。

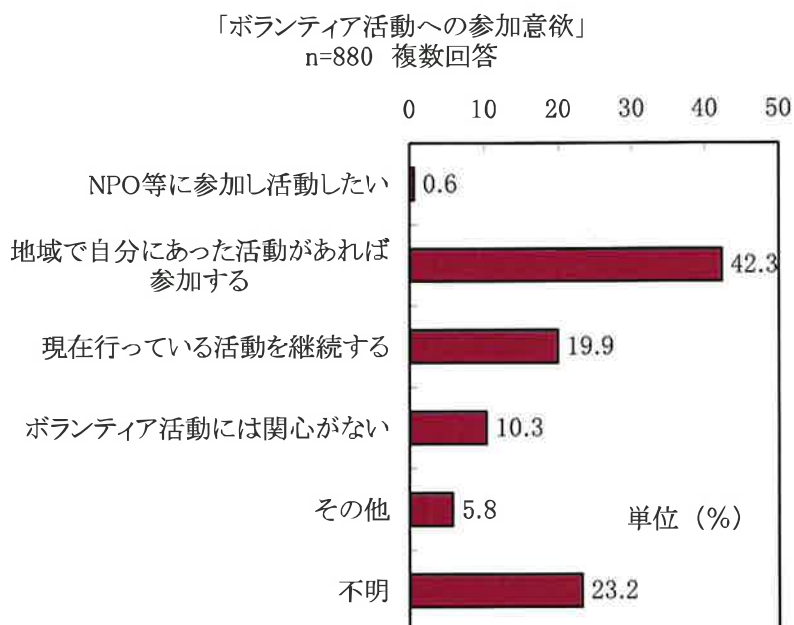
表 性別×生きがいを感じる趣味・スポーツの内容(上位8位) (％)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
男性	国内旅行	園芸	ゴルフ	その他 スポーツ	読書	囲碁・将棋	海外旅行	写真
比率(%)	35.1	32.4	21.6	18.9	18.9	16.2	13.5	8.1
女性	読書	茶道・華道	手芸	体操	フィットネス	楽器演奏	園芸	習字
比率(%)	36.4	27.3	27.3	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2

問 16 ボランティア活動への参加

～地域に関する活動への参加意向は高い～

ボランティアの参加意向は、「地域で自分にあった活動があれば参加する」が42.3%と最も多く、次いで「現在行っている活動を継続する」が19.9%と6割以上が既に活動又は活動する意識を持っている。「ボランティア活動に関心がない」は10.3%と1割程度にとどまっている。



問 17 参加したいボランティア活動等
～地域密着型で世代間の交流への希望が多い～

参加してみたいボランティア等の活動は、「地域社会関係（自治会、街づくり、交通安全など）」が30.2%と最も多く、次いで「世代間交流関係（子供会、老人クラブ活動など）」が17.3%と地域に密着した活動への希望が多くみられる。

また、その他では「老人福祉関係（独居老人の慰問、介護支援など）」が14.8%、「家事サービス関係（ハウスキーパー、農作業、植木の手入れなど）」が12.6%と、特殊な技能を必要としないで簡単な軽作業等で支援できる活動の希望が続いている。

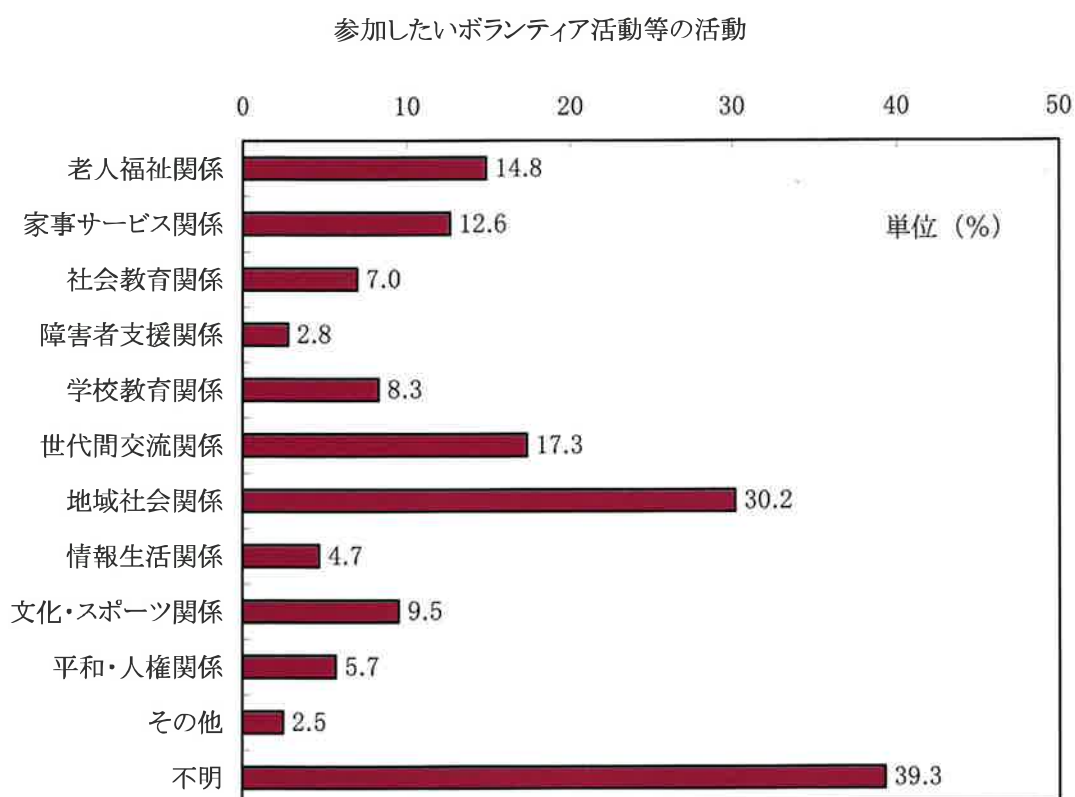


表 性別×参加したいボランティア活動等 (%)

	回答数	老人福祉関係	家事サービス関係	社会教育関係	障害者支援関係	学校教育関係	世代間交流関係	地域社会関係	情報生活関係	文化・スポーツ関係	平和・人権関係
合計	880	14.8	12.6	7.0	2.8	8.3	17.3	30.2	4.7	9.5	5.7
男性	598	11.0	16.2	7.2	2.5	6.9	16.2	36.6	5.4	9.9	5.4
女性	280	22.9	5.0	6.8	3.6	11.4	19.6	16.1	3.2	8.9	6.4

※ 不明回答は含んでいないため合計数値は合致しない。

問 18 ライフサポートセンターに相談したい内容
 ～「健康、趣味、介護」に対する相談希望が多い～

相談したい内容は、上位には「健康増進活動」が 35.6%、「趣味・娯楽活動」が 29.9%、「介護などの福祉支援」が 21.8%、「生活全般に関する相談」18.9%が続いており、社会との繋がりを保つ「社会問題・政治問題などのセミナー」や「交流会等の開催」「提言・要求活動」の期待度は低い。また同様に「生活資金援助」「年金相談」などの生活資金的な相談も他と比較して低くなっている。

年齢別で見ると、各年齢層とも「健康」「趣味・娯楽」「介護」に関する相談が项目的には上位となっているが、生活の中での諸問題も多いことから「生活全般に関する相談」も必要という意見は多くなっている。また 60～64 歳では「年金相談」「仕事の紹介」が上位となっている。75 歳以上では「交流会の開催」「家事や買い物など生活支援」に対する層だか希望が高くなっている。

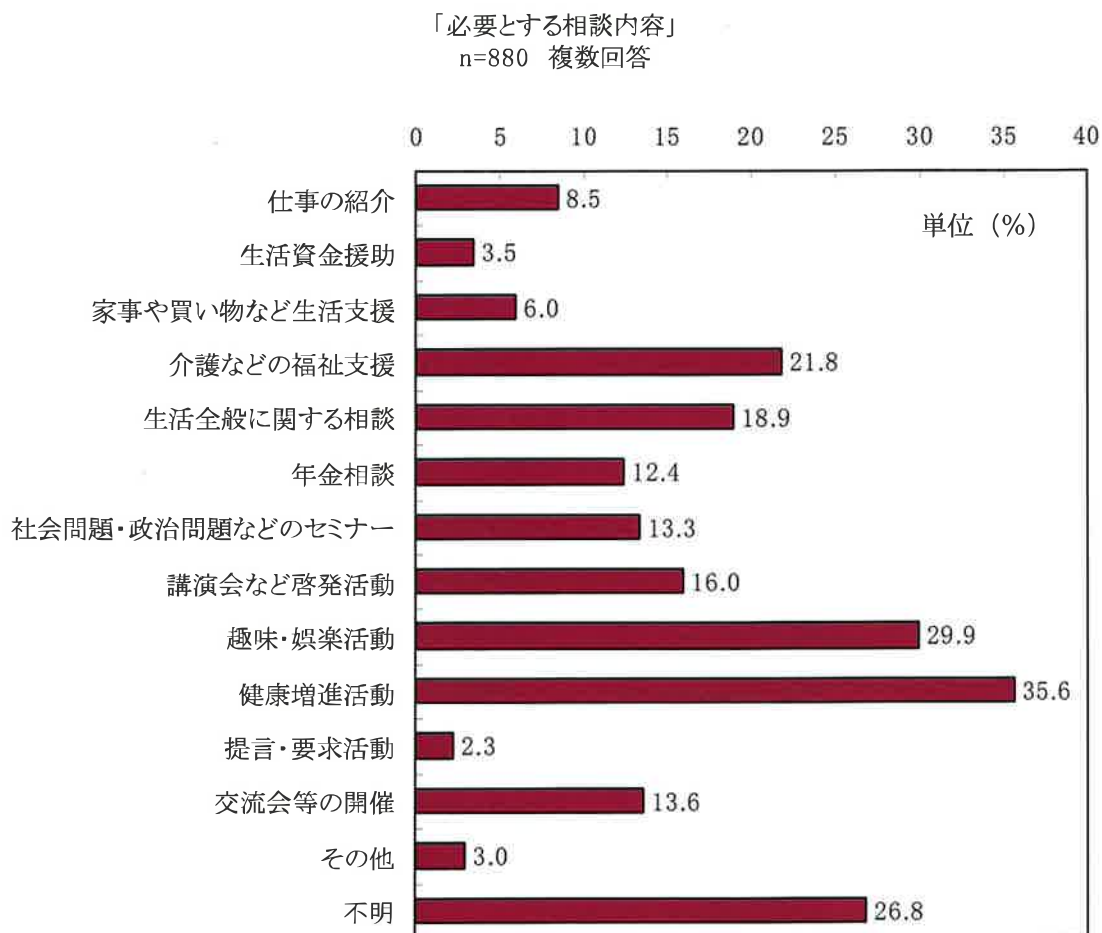


表 年齢別×必要とする相談内容

(%)

年齢	合計	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位
60～64歳	211人	健康増進活動	趣味・娯楽活動	介護などの福祉支援	生活全般に関する相談	年金相談	仕事の紹介	社会・政治問題等のセミナー	講演会など啓発活動
		38.9	33.2	24.2	21.8	20.9	18.5	17.5	16.1
65～69歳	212人	健康増進活動	趣味・娯楽活動	介護などの福祉支援	生活全般に関する相談	講演会など啓発活動	社会・政治問題等のセミナー	交流会等の開催	年金相談
		41.0	34.0	26.4	23.1	22.2	16.5	15.6	13.2
70～74歳	156人	健康増進活動	趣味・娯楽活動	交流会等の開催	講演会など啓発活動	生活全般に関する相談	介護などの福祉支援	年金相談	社会・政治問題等のセミナー
		37.8	32.1	21.2	17.3	16.7	15.4	13.5	12.8
75歳以上	295人	健康増進活動	趣味・娯楽活動	介護などの福祉支援	生活全般に関する相談	講演会など啓発活動	交流会等の開催	家事や買い物など生活支援	社会・政治問題等のセミナー
		28.1	24.1	20.7	15.3	10.8	9.8	8.5	8.5